

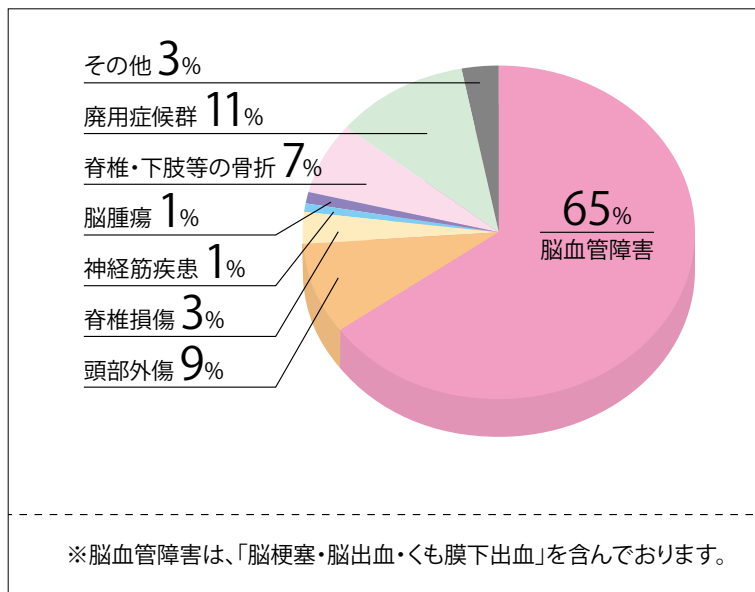
II 退院患者

退院患者 (n=612)

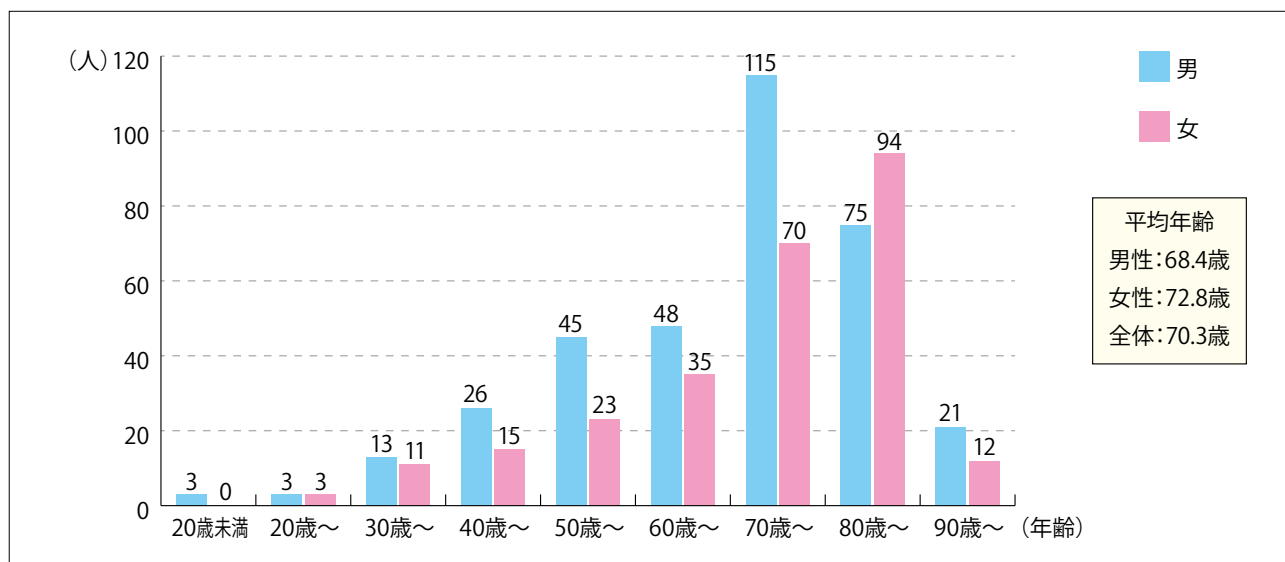
※同一者の同一疾患での再入院は1入院として扱っております。

※回復期リハビリテーション病棟協会が2016年2月に発表した「回復期リハビリテーション病棟の現状と課題に関する調査報告書」内の全国平均値を、一部、当院の実績と比較しています。

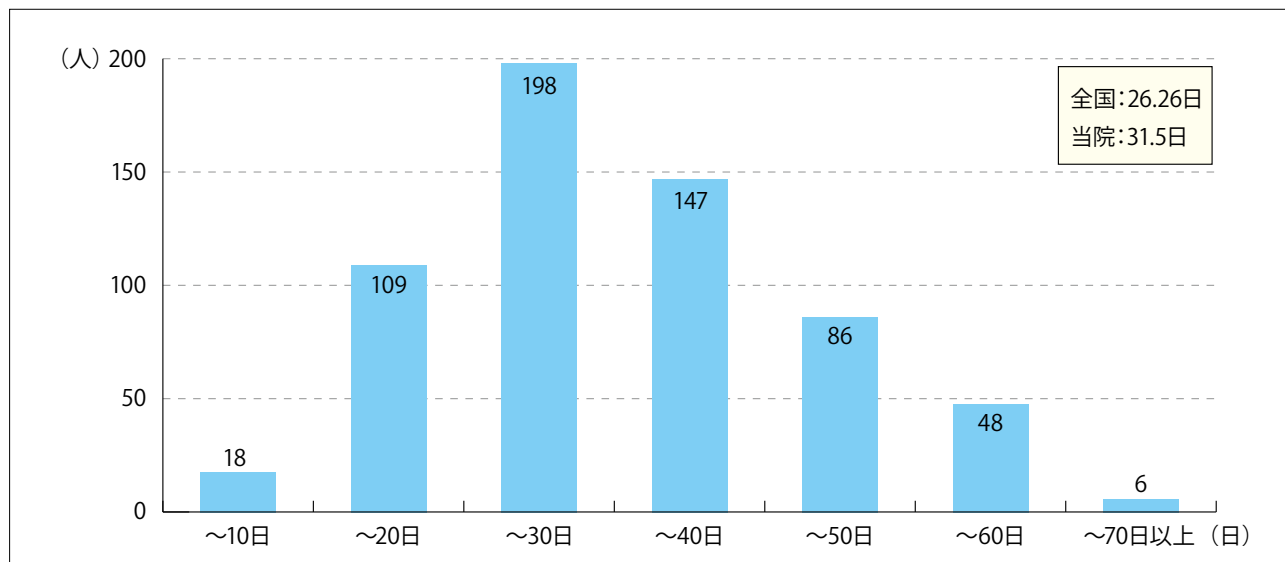
①疾患別患者数



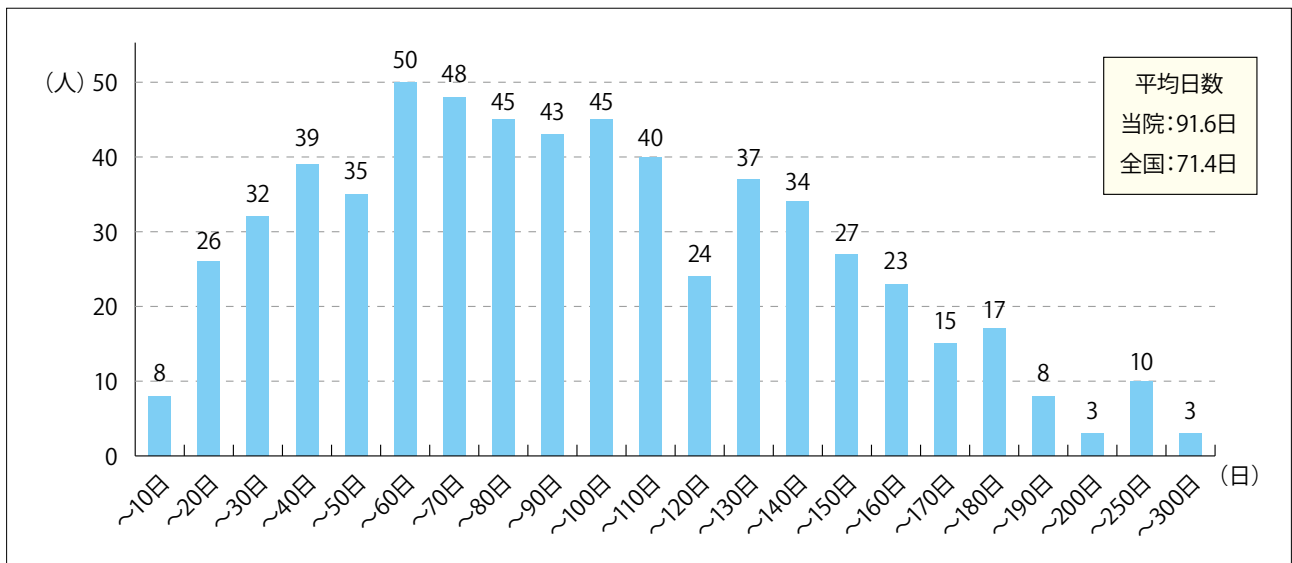
②年齢・性別構成



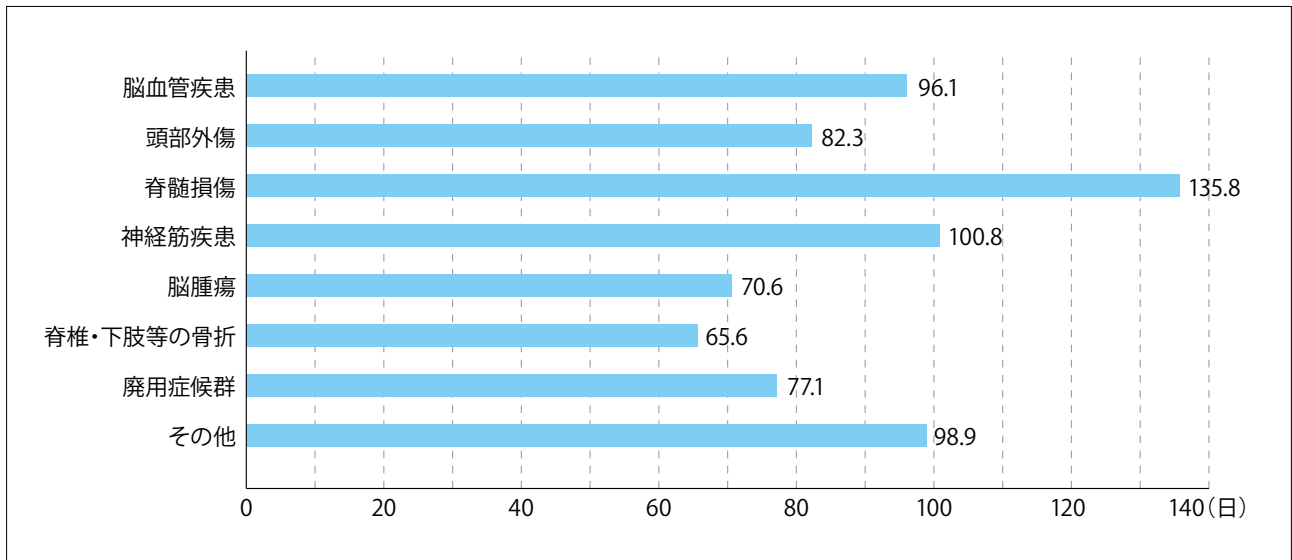
③発症～初回入院までの期間



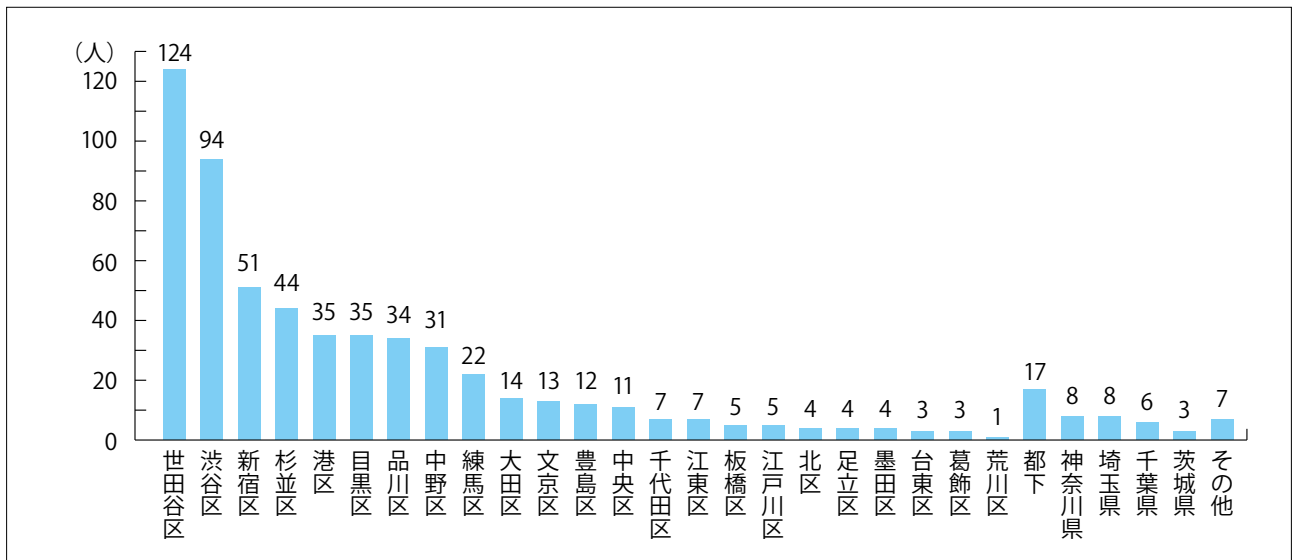
④ 在院日数



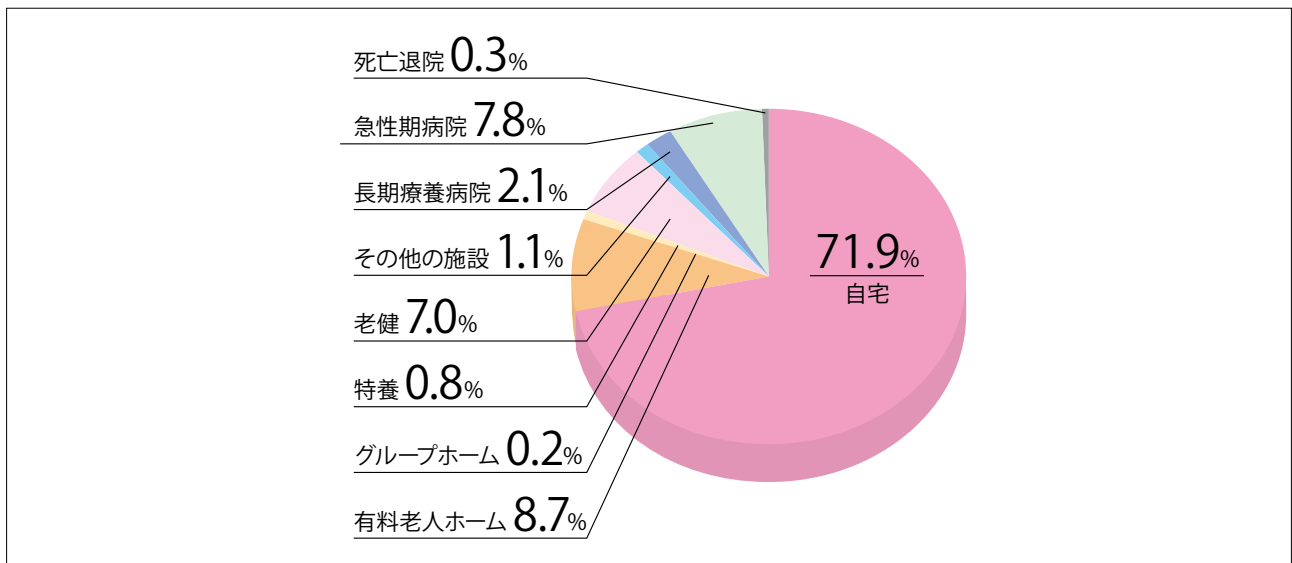
⑤ 疾患別平均在院日数



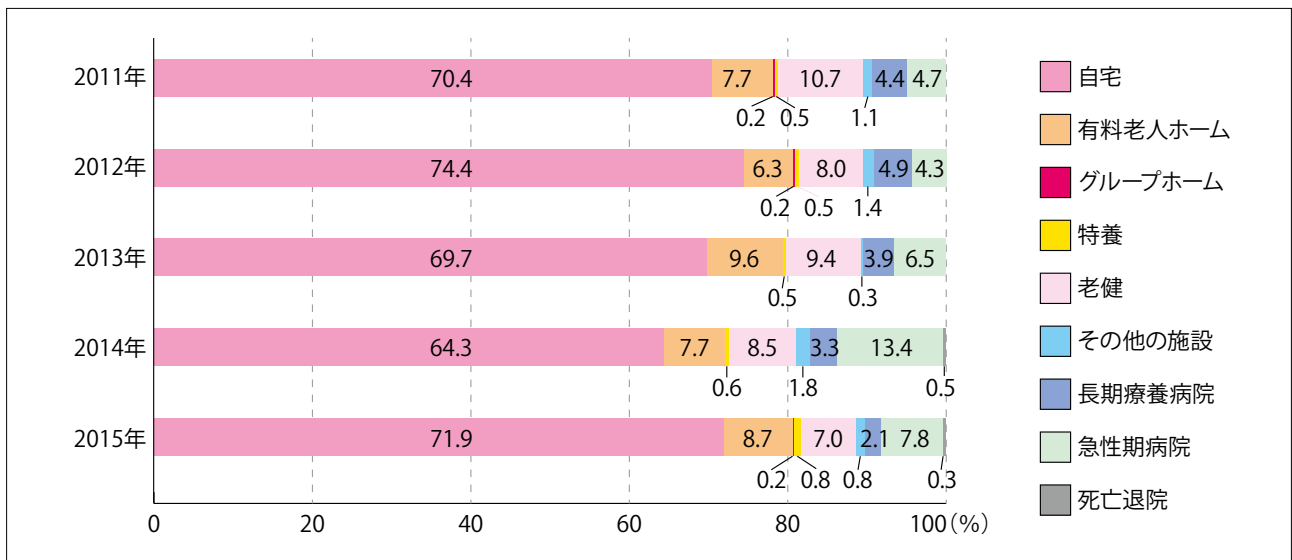
⑥ 患者住所



⑦最終退院先

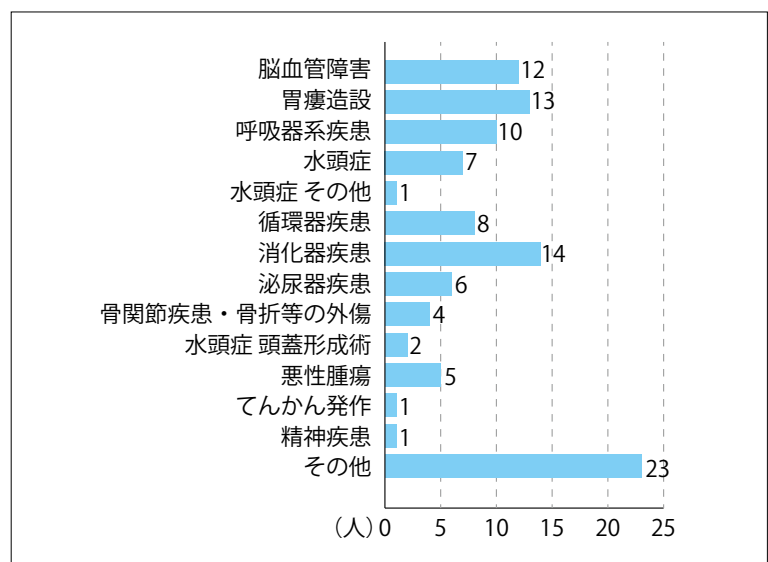


⑧最終退院先・年別 (2011年～2015年)



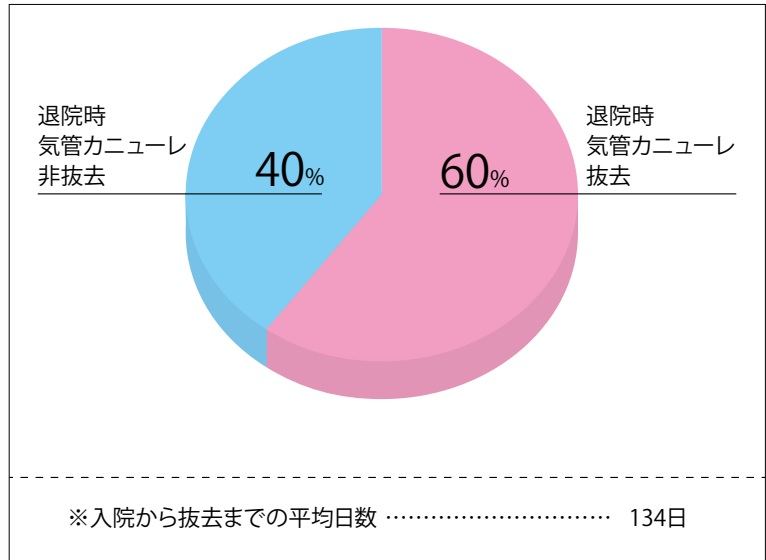
⑨他医療機関への治療目的での転院理由

重篤な合併症の発症等によりリハビリテーションの継続が困難、あるいは専門的な精査・治療が望まれる場合には、必要に応じて急性期病院（原則として紹介元病院）に転院し専門的な治療を受けていただいています。昨年は7.8%の方が急性期病院に転院されました。治療が終了し、リハビリ再開が可能となりましたら当院に再入院いただけます。



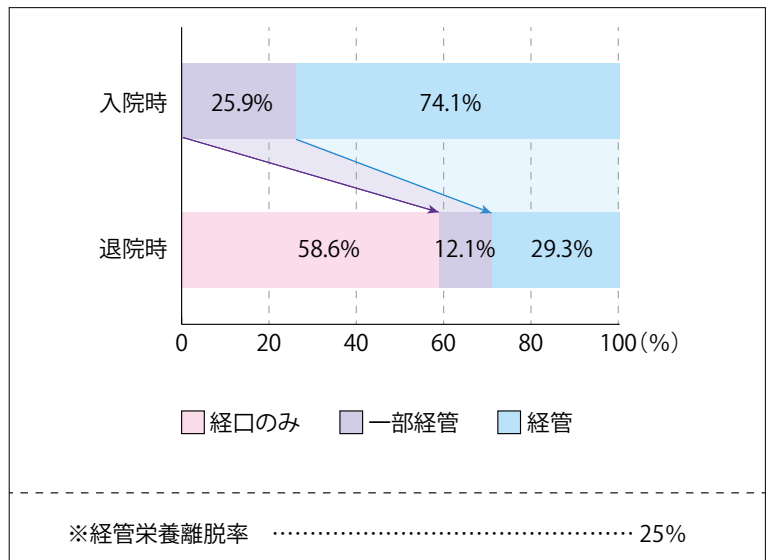
⑩気管切開抜去率 (n = 15 人)

当院入院時に気管切開・気管カニューレ留置の状態入院された方の60%が、退院までに気管カニューレを抜去し、気管切開孔を閉鎖することが出来ました。



⑪経管栄養離脱率 (n = 58 人)

口から十分に食べられずに経管栄養が必要な状態で当院に入院された方のうち、59%の方が退院までに3食経口摂取ができるようになり、12%の方が一部経口摂取可能となりました。



⑫膀胱カテーテルの離脱率 (n = 46 人)

膀胱カテーテル留置の状態入院された方のうち、74%の方のカテーテルを抜くことができ、自排尿の状態退院されました。

また、6%の方は夜間のみカテーテルを留置する「ナイトバルーン」の状態退院されました。

